

「JAグループ残留農薬分析研究会」開催

残留農薬検査室は、JAグループの営農および残留農薬検査関係者を集めて、残留農薬検査に関する知識・技術向上と情報交換を目的に「JAグループ残留農薬分析研究会」を2001年より毎年開催しています。22回目となる今回は、2022年11月9日、営農・技術センター（神奈川県平塚市）を拠点に新型コロナウイルス対策のためWeb会議方式で行われ、50名が参加しました。

外部精度管理技能評価試験の結果を講評

最初に（一財）日本食品分析センターより、外部精度管理技能評価試験の結果について講評をいただきました。この試験は、同センターからJAグループの残留検査機関に送付された農薬を含む農作物のサンプルを各機関で分析し、結果を取りまとめて分析精度を調査するもので、各機関での検査の信頼性を高めるための取り組みです。本年度はきゅうりを用いて5種類の農薬成分について試験を行いました。今年度に参加した25の機関は「分析値のバラツキが少なく精度が高い分析を行っている」とのコメントがありました。

ISO/IEC 17025に関する取り組みを紹介

続いて残留農薬検査室より、昨年



「JAグループ残留農薬分析研究会」の開催風景

2月に認定を受けたISO/IEC17025（試験所の能力に関する国際標準規格）に関する取り組みを紹介しました。当室では「液体クロマトグラフ質量分析による小麦用殺菌剤3成分の残留分析試験」について認定を取得し、これを活用してGAP認証を受ける生産者や、農産物輸出に関する検査受託の拡大に取り組んでいることを説明しました。

「残留農薬検査における分析対象物質の考え方」を説明

次に残留農薬検査室より「残留農薬検査における分析対象物質の考え方」と題し、農薬成分の代謝物や異性体などの考え方について説明しました。成分によっては、正確な残留

値を算出するために代謝物などの分析が必要になる場合があるため、いくつかの成分について事例を紹介しました。

参加者からのアンケートをもとに意見交換

その後、参加者からのアンケートをもとに意見交換を行いました。今回のテーマは「各機関の検査実務体制と分析実務者の課題」で、各検査機関における検査実務者の状況、課題について事前アンケートで報告をいただいた内容を中心に協議しました。人材育成や検査に関する情報収集などの課題について、参加者からの意見をいただくとともに、当室の検査担当者からも検査の実態、課題について報告しました。

最後に研究会参加者からの質問を中心に総合討論を行い、研究会を終りました。



残留農薬検査室では、今後も「JAグループ残留農薬分析研究会」を開催し、講演会や参加者との意見交換を通じてJAグループの残留検査機関のレベルアップと情報交換を行っていきます。 【全農 耕種総合対策部

営農・技術センター 残留農薬検査室】

表 令和4年度JAグループ残留農薬分析研究会の開催内容

内容	担当
きゅうりを用いた技能試験（概要と講評）	（一財）日本食品分析センター
残留農薬検査室のISO/IEC17025認定に関する取り組み	全農 残留農薬検査室
残留農薬検査における分析対象物質の考え方	全農 残留農薬検査室
意見交換「各機関の検査実務体制と分析実務者の課題」	（進行）全農 残留農薬検査室
総合討論	（進行）全農 残留農薬検査室